

HIRATSUKA KYOUKAIHO

No.261

平塚協会報

発行所：公益社団法人 神奈川労務安全衛生協会 平塚支部
発行責任者：小笠原 仁志



新年を迎えて

(公社)神奈川労務安全衛生協会
平塚支部
支部長 松野 吉純
〈関西ペイント平塚事業所〉



新年明けましておめでとうございます。

平素より当協会の運営、各種事業に対するご理解とご支援を賜り、心から感謝申し上げます。また、平塚労働基準監督署をはじめ、関係官庁、諸団体ならびに会員事業場の皆様のご協力により、令和元年度の事業計画を順調に進めて来られましたことにつきまして重ねて御礼申し上げます。

さて、本年はいよいよ夏季東京五輪が開催されます。いやが上にもマインドが大いに高まっていく一方で、米中の貿易摩擦をはじめとする海外経済の影響や消費税率10%へ

の引上げによる国内景気の動向等、日本経済の先行き不透明感は当面払拭できない状況にあります。加えて、近年は異常な暑さや豪雨といった異常気象、台風や大地震等の自然災害の対策にも十分留意していく必要があります。このように我々を取巻く環境の変化は、年々多岐にわたって増して来ています。従って、当協会としましても適正な労務安全衛生活動の普及・啓発を地道に推進していくことを今一度強く感じております。取分け、昨年4月より順次施行された働き方改革関連法の周知や平成30年度からスタートした第13次労働災害防止推進計画の実行(因みに令和元年10月末平塚労働基準監督署管内労働者死傷病数は初年度比約14%減、但し製造業は約8%増の状況)等、連携した取組みに注力して参ります。会員事業場の皆様におかれましては、引続き安全に安心して健康に働ける職場づくりのための労務安全衛生の取組みを着実に実施して頂きますよう、宜しくお願い申し上げます。

最後に、会員事業場の皆様のご発展とご健勝を祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



新年のごあいさつ

平塚労働基準監督署

署長 池田 有他

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いたします。

昨年の出来事を振り返りますと、第一は平成から令和へと大きく時代が動いたことです。8か月が過ぎ、ようやく新しい年号に違和感を感じなくなったような気がします。

次に「働き方改革関連法」が成立し昨年4月1日から順次施行されていることです。同法令の柱は時間外労働の上限規制、年次有給休暇の5日取得義務付け並びに同一労働同一賃金ですが、いずれも長年の懸案であった働く環境の大変革となります。昭和の終わりから平成の初めにかけて40時間労働制への改正が行われましたが、これに次ぐ大改革だと言えます。30年前は「過労死」という言葉が生まれた頃だと思いますが、「サラリーマン戦士」という言葉が表すように長時間労働がある意味、当たり前みたいな時代でもありました。あれから30年、時代も変わりました。令和の時代は働き過ぎを防止しそれぞれの事情に応じた多様な働き方を選択できる社会に向けて貴支部と協力して推進していきたいと思えます。

最後に労働災害防止及び健康確保の取り組みです。一昨年、平塚労働基準監督署管内で労働災害が急増したこと、あるいは昨年、製造業で増加したことへの取り組み強化については貴支部に対し、2度にわたる文書要請をさせていただき、また、部会等の各種会議でも取り組みをお願いしましたが、その都度真剣に受け止めて適切な対応ありがとうございました。中でも、年度

の途中であったにもかかわらず、神奈川県労働局及び当署との合同パトロールや荷主協議会とのコラボレーションで荷主の立場と運送業者の立場の事業場に出席いただき、模範的荷主事業者の好事例を見てもらいつつ、それぞれの立場で意見交換を行うなど有意義な企画をまとめていただきありがとうございました。このように、アイデアをお互いに出し合って、新しい時代の労働災害防止や健康確保を図っていくことが理想です。

本年は第13次労働災害防止推進5か年計画の中間年になります。当署管内の労働災害は一昨年急増し、昨年で大きくは減少できていない状況にあり、今後とも貴支部と協力の上、労働災害の減少を図りたいと考えておりますので、どうかよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、本年も平塚支部及び会員事業場にとって幸多き1年となりますよう心から祈念いたしまして、新年のごあいさつとさせていただきます。

令和元年
10月1日
から

確認しましょう!

神奈川県 最低賃金

1,011円 時間給

令和2年 年間標語

健康安全 意識を高め 目指せゼロ災金メダル

安全衛生祈願・経営首脳者セミナー

令和2年1月10日(金)、新春の青空の下、当協会の年頭恒例行事である安全衛生祈願が、秦野市平沢の「出雲大社相模分祠」で行われました。

今年も来賓として平塚労働基準監督署より池田署長、高橋安全衛生課長、神奈川労務安全衛生協会本部より村下事業部長をお招きし、当協会支部長、3副支部長並びに4部会長をはじめ各会員事業場より73名参集しました。拝殿内では宮司さんの祈願、巫女の舞の後玉串拝礼を執り行い、1年間の安全と健康を全員で祈願しました。

その後、隣接の出雲記念館へと会場を移して、経営首脳者セミナーが開催されました。

松野支部長の開会挨拶のあと、村下事業部長の来賓挨拶をいただきました。

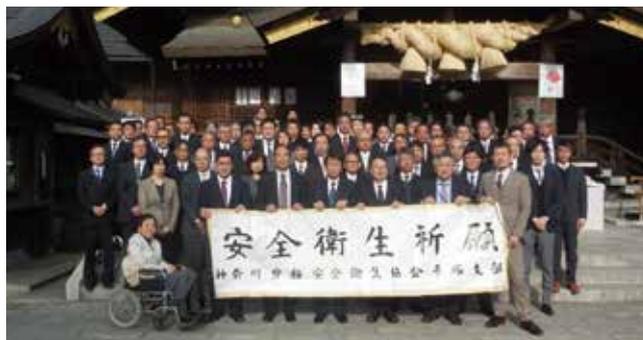
行政講演は平塚労働基準監督署池田署長より「働き方改革最新情報」と題して、働き方改革関連法の概要、関連法スケジュール、多様な柔軟な働き方の例、働き方改革での注意事項など働き方改革の次の展開をメインにスライドを交えてわかりやすくご説明いただきました。

続いて、特別講演として、元日本テレビ「笑点」ディレ

クター現在は、落語・小料理やきもち女将の中田志保様より「日テレ・へっぽこ社員がやりたいことで独立するまで」と題して、女将となった理由、本当に楽しい落語にかける思い、ご自身が体験・経験された内容をお話しされ、今は夢が叶ったとおっしゃっている中田様の仕事にかける熱い思いを感じられる内容でした。

最後に、高野第2副支部長の閉会の挨拶でセミナーは盛会裏に終了しました。

日鍛バルブ(株) 石田 記



令和元年度 神奈川労務安全衛生大会開催される

去る11月7日(休)「レンブラントホテル海老名」において、令和元年度神奈川労務安全衛生大会が、神奈川労働局、神奈川県、海老名市のご支援、ならびに厚木支部、相模原支部の運営により開催されました。

第一部の「表彰式」では労務安全衛生功労賞で58名、支部別安全競争で4支部の表彰が執り行われました。この賞は、神奈川県下事業場における労務管理、安全衛生活動の向上に貢献された方、および本協会の事業活動の遂行に功績のあった方を対象に授与されるもので、平塚支部からは



以下の4名が受賞されるとともに支部別安全競争「努力賞」を受賞しました。

〈労務安全衛生功労賞／支部別安全競争受賞者〉

- ・中濱 芳輝 氏 田中貴金属工業(株)平塚工場(左から1番目)
- ・遠藤富士男 氏 (株)パイロットコーポレーション平塚工場(左から2番目)
- ・小澤 健太 氏 横浜ゴム(株)平塚製造所(左から3番目)
- ・深堀 順二 氏 日産車体エンジニアリング(株)(右から2番目)
- ・松野 吉純 氏 神奈川労務安全衛生協会 平塚支部支部長(右から3番目)
- ・市川 重行 氏 神奈川労務安全衛生協会 平塚支部副支部長(右から1番目)

受賞者の皆様、誠にありがとうございます。受賞された皆様におかれましては益々のご活躍をご祈念申し上げます。

第二部では特別講演としてパラリンピックの水泳種目で金メダリストである成田真由美さんを講師としてお招きし、「THE パラリンピック」と題して、ご講演をいただきました。

障害者となった時の家族との葛藤や、障害者として受け入れるきっかけとなった家族の愛情、金メダリストとしての並々ならぬ努力など、普段聞けない貴重なお話を聞くことができました。講演は大変有意義なものとなり、最後は盛大な拍手のもと、本記念大会は終了となりました。

スタンレー電気(株) 壬生 記



東京オリンピックで喜びや楽しみ多き年に!!

古河電気工業(株)平塚事業所衛生管理室 眞壁 亜紀子

新年あけましておめでとうございます。令和初の新年、皆さんはどのように過ごされましたか？

さて、1年前のこのコラムで私は、「今年は穏やかな年であって欲しい」と思って新年を迎えたと書きました。しかし、残念ながら、昨年相次ぐ大きな自然災害、自動車事故や無差別殺人のような怒りや哀しみを覚える出来事が多く起こってしまいました。

いっぽうで、ラグビーワールドカップでは、日本代表が初の決勝トーナメント進出、テニスの大坂なおみ選手は、日本選手初の世界ランク1位、ゴルフの渋野日向子選手は、

42年ぶりの海外メジャー優勝など、スポーツ界では日本人が大活躍し、楽しみや喜びに沸いた年でもありました。

今年2020年は、皆さんもご存じのとおり、東京オリンピックが開催されます。56年前の1964年東京オリンピックで日本勢は、金16個・銀5個・銅8個の計29個のメダルを獲得し、多くの日本人に感動・夢・希望・勇気を与えてくれたそうです。

昨年は、喜怒哀楽の激しい1年でしたが、今年は東京オリンピックを契機に、「喜び」や「楽しみ」のほうが多い年になってくれたらと願うばかりです。

雑感

『安全を基本に戻って考えてみる』

三菱ケミカル(株) 平塚工場 山田 久善

「昨今は、躓き等の転倒災害が多発している」と、最近の行政講演等でよく聞きます。過去にも転倒災害はあったと思われませんが、転落災害や挟まれ災害のような重篤な災害がクローズアップされ対策が打たれて減ってきた為に、減らない転倒災害がクローズアップされている事も考えられます。

災害をゼロにするために、一度安全の基本に戻って考えてみませんか？最近の安全講演での基本的な話を記します。

- ① リスクゼロはあり得ない。
- ② 安全とは、許容可能な(無視できる)リスクのみ。
- ③ リスクとは、危害発生確率と危害重篤さの組合せ。
- ④ 安全設計は、構造安全と確率安全で考える。
- ⑤ 構造安全は、フェールセーフ、フールプルーフ。
- ⑥ 確率安全は、信頼性を上げた多重防護の構造。
- ⑦ 安全システムは、危険検出型と安全確認型。

⑧ 危険検出型は、危険を検出して停止、回避する。

⑨ 安全確認型は、安全を確認して作業を続行する。

最後に昔話を一つ、蒸気機関車が走り始めた頃のイギリスでは、駅員が近くの小屋からスイッチを押して、顔ぐらいの大きさのボールを運転者の視線以上の高さまで上げないと出発できなかった。その頃は踏切もなく横断者があればスイッチを離してボールを下げて車を止めていた。当時スコッチを飲みながらスイッチ操作をする人もいて、酔っ払って寝ちゃってスイッチを押せないで車はずっと駅から出発できなかった事もあったようです。この頃からフェールセーフに近い考え方はあったようですね。(酔っ払って確認せず押してしまうと危険ですが)

ちなみにこの駅員は「ハイボール」と呼ばれていて、飲んでいるスコッチは強いので炭酸で割っていたようです。諸説ありますがハイボールの語源との説もあるようです。

荷主協議会優良事業場見学及び意見交換会について

(平塚労働基準監督署 署長 池田 有他)

労働災害が増加傾向にある運転手の荷役作業ですが、そのほとんどが荷主の敷地内で発生するなか、荷主の協力なしでは運転手の労働災害の減少は望めません。特に、トラックのあおりに足をかけ、シート掛けをしていて、あるいは荷台への昇り降りの際などの事故が目立ちます。そこで、支部会員のコベルコマテリアル銅管様の御協力と貴支部などの企画で10月18日、陸災防の運送業者側と貴支部及び建災防の荷主側に出席してもらい、荷主として運転手の労働災害防止に配慮している状況の説明、見学、意見交換の機会を得ました。昇降設備や荷役時の墜落防止設備を荷主として用意した好事例です。見学後の意見交換では、運送業者側としては荷主の配慮を切実に求める意見がありましたが、荷主側としては必要性を感じるものの、それぞれの立場で差があることも浮き彫りになりました。立場の違いを埋め相互理解が進めば運転手の労働災害はもっと減るだろうと期待される、良い試みでした。



(荷主が用意した昇降設備)



(シート掛けの際に墜落する恐れがあるので、レールをスライドする墜落防止器具を設置し、またトラックのあおりに架ける軽量の足場を準備)

編集後記

令和になって初めての新年、明けましておめでとうございます。皆様には健やかに新春を迎えられたことと、お慶び申し上げます。

昨年を振り返りますと、ラグビーワールドカップが日本で開催されました。2015年の前回大会はイングランドでの開催と言う事もあり、朝早く起きて、3時頃からテレビ観戦し会社には目を赤くして出社した覚えがあります。今大会は地元開催なので、プライムタイムでの観戦となりましたし、日本代表の予選リーグ快進撃により日本中が盛り上

がった事を思い出します。対戦時、世界ランク第2位のアイルランドを撃破した時にはベスト4も夢ではないと大いに沸きました。結果としては、準々決勝で敗れてしまいましたが、この盛り上がりや4年後まで継続して今回以上の成績を目指して頂きたいものです。

さて、今年は東京オリンピックが開催されます。ラグビーワールドカップ同様に柔道やレスリングをはじめ多くの種目で日本選手が活躍しメダルラッシュして頂き、大いに盛り上がりたい所です。

最後に2020年度は労安協平塚支部一丸となり、災害の芽を摘む安全活動を展開していきましょう。

(株)コベルコ マテリアル銅管 小山 記